

会議録

概要

会議名	第1回豊岡市多様性推進・ジェンダーギャップ対策検討委員会 第1回豊岡市多様性推進・ジェンダーギャップ対策庁内検討委員会
日 時	2024年6月25日（火）13:00～16:05
場 所	豊岡市役所3階 庁議室
出席者	委員：13人（敬称略） 井垣 真紀、今井 秀司、木谷 妙子、岸田 尚子、久木田 里奈、佐藤 春華、高橋 正透、瀧下 真理子、中田 修平、三宅 清子、宮下 隆司、姚 瑶、和田 歩 庁内委員：15人 アドバイザー：田村太郎 氏
事務局	くらし創造部部長 谷岡慎一 多様性推進・ジェンダーギャップ対策課 木内純子、原田紀代美、岡本加奈子、得田雅人

議事

- 1 市長あいさつ
- 2 委嘱状交付
- 3 アドバイザー紹介・自己紹介
- 4 委員長及び副委員長の選出
・委員長 高橋正透氏、副委員長 瀧下真理子氏に決定
- 5 指針策定の趣旨説明、既存事業の確認
・多様性推進・ジェンダーギャップ対策課課長補佐原田より説明
- 6 講演① 「ダイバーシティの推進と地域に求められる取り組み
～多様性配慮全般・多文化共生・ジェンダーについて～」
（講師）豊岡市多様性推進アドバイザー
一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事 田村 太郎 氏

〔質疑応答〕

- 委 員：以前から「ダイバーシティ」の必要性が言われていたが、なぜ今取組を始めるのか。
多様性はどんどん増える。ゴールがない。収拾がつかないのではないかな。
- 講 師：社会の持続可能性への危機感。環境配慮も同じ考え方だと思う。
好き勝手にやることがダイバーシティではない。
寛容と調和、折り合いをつけることが大切。

- 7 講演② 「ありのままがあたりまえのまちづくり～明石市のLGBTQ+/SOGIEに関する取組～」
（講師）明石市市民生活局市民協働推進室
インクルーシブ推進課主任 増原 裕子 氏

〔質疑応答〕

委員：教職員、低学年の子どもへの研修はどのような方法で実施されているか。

講師：教職員向けには、本日と同じような講義を行っている。

子ども向けには、当事者の講師4名を派遣して実施している。

委員：子どもが4歳の時「男の子なのに、ピンクの服を着ている」と言ったことがある。

低学年への取組も大切だが、就学前から知ることが大切だと思う。

委員：アウティングについて、本人がSNS等で公表している場合、配慮が必要か。

講師：講演活動等で公表している人は特に問題ない。

学校の先生に「学年団で共有したいがどうか」と聞かれることがあるが、個別に聞いた話は、本人の了解が必要。

委員：温泉の外湯で、LGBTQの人はどちらの湯（男湯、女湯）に入るのかという議論があった。

講師：公衆浴場については、身体的な特徴で分けることになっている。

8 意見交換

テーマ① 豊岡市が推進すべき「多様性」の定義をどうするか

テーマ② 豊岡市が推進すべき「性の多様性」をどの範囲まで定義するのか

(1) Aグループ

① 他者を受け入れる。相互理解。全ての人が対等であるということ。

② LGBTQ+ どれも省けない。

(2) Bグループ

① 違いがあるというだけではなく、「みんな違ってみんないい」みたいな感じで、未来に向かって変化していく。

② LGBTQ+

(3) Cグループ

① 多様性の意味をわかりやすくしてほしい。定義したいが、文字にできなかった。一般市民でも分かるようにする必要がある。

② 一言で定義できなかった。

(4) Dグループ

① さまざまな違いを受け入れること。互いに対等な関係。調和がとれていること。

② LGBTQ+、自分事として理解すること。誰一人取り残さない。意識を持ち続ける。

(5) Eグループ

① 属性に関わらず解消していくことが多様性。

② LGBTQ+ 範囲を決めるのは良くないという意見もあった。

(6) Fグループ

① 市民に提示するのであればいくつか例示することが必要。

② LGBTQ+

9 講師コメント

- ・ダイバーシティは違いを受け入れるところから始まる。対等、調和。
- ・LGBTQ+は見えづらいマイノリティ。そもそも気づかれない。
- ・知ることによってアンテナが立って、見え方が変わってくる。
- ・今日のような出会いを通して、体感できる。
- ・豊岡市 77,000 人のうち、5 %が性的マイノリティだとすると、3,850 人いるんだという想像力が大切。
- ・新たな LGBTQ+との出会いを通じて慣れていくことが必要。
- ・身近にいるかもしれないという想像力を働かせてほしい。
- ・私自身も、ある事業でアルビノの当事者グループに助成をした経験がある。
以前から言葉では知っていたが実際に関わってから視野に入ってくるようになった。
- ・どこかで何かで辛い人がいるかもしれない。どう目を向けるのかを考えてほしい。
- ・今日の会議で、そこに目を向けていくことが共通認識として持てたのではないかと思う。